

社会科見学新聞

令和4年

11月24日

幸野溝の歴史

幸野溝の改作は元禄九年「一六九六年」に相良藩士「高橋政重」によって始められ、血のにじむような努力で、宝永二年「一七〇五年」に完成した農業用水路です。

幸野溝の水を流すため、古城台地の下にトンネル「ずい道」を掘る工事が行われました。現在は再び改修が行われ、ずい道の中をパイプが通り、そのパイプの中の水が流れています。



ずい道を見学中

紫外線を倒すバイ菌

太陽の光でバイ菌や菌を倒して消毒します。

たとえば、インフルエンザや赤痢菌やチフス菌などです。

紫外線は可視光より波長が短い光線で、人の目には見えません。

紫外線ランプの青白く見える光は「可視光」で、そこに「目には見えない紫外線」が混ざっています。

紫外線エネルギーは多くの有機化合物の「エネルギー」より強いので、細胞膜を壊して殺菌する、生物のDNAを損傷修復する、など環境にダメージを与えない殺菌法となります。紫外線が活用されています。



これが紫外線

力持ちのクレーン

クレーンはゴミピットの中にいます。

一トンまで持てます。

一日六十トン運びます。

水気がある物と乾いた物をかたよらないように混ぜます。



ゴミピットには六百トンためられます。

感想

幸野溝のトンネルを作る人が崩れて亡くなったなんて大変だったと思います。

紫外線で菌を倒すのは初めて知りました。ゴミピットの中たくさんゴミを集めるのを聞いてたくさんゴミを集めるのがすごいなと思いました。

びつくり新聞

入ったら抜けなくなる！

十一月四日に私は幸野溝見学に行きました。ここでは、幸野溝見学で学習して来たことを伝えようと思います。

私は幸野溝見学で学習して、幸野溝という名前は幸野溝が始まる地区が由来ということが分かりました。次に幸野溝から水を一年間に、一億六百万t(二十五メートルプール二十万ばい分)も流していることが分かりました。私は幸野溝見学に行っているいろいろなことが分かってもっと幸野溝のことが知りたいと思ったし、幸野溝がすごいということを改めて思いました。

なのでみなさんもぜひ幸野のことについて調べて、幸野溝の沼に入ってみてはどうですか？

沼に入ったら、抜けなくなりますけどね！



思い出作ろう



私はここで、幸野溝見学に行った感想を伝えたいと思います。

幸野溝見学では水土里ネットさんの方々にいろいろなことを教えてもらいました。例えば多良木天満宮で、あるいい伝えがあることを教えてもらいました。バスでは、友達と問題を出し合ったり、寝たりしました。

幸野溝見学では、幸野溝のことが詳しく分かったし、バスでは、友達と仲を深めることができました。楽しかったのですがまたこういうきかいがあったら、ちゃんと学習しながらいい思い出を作っていこうと思います。皆さんも、いろいろな思い出をつくってみてはどうですか？

油を捨てたら...

十月十八日に社会科見学で、浄化センターに行ってきました。

そこで、浄化センターさんの方々からお願いを聞いてきました。浄化センターさんの方々お願いは、油をそのまま捨てないでくださいというお願いでした。なぜなら下水道管を通るので、油が固まり、詰まってしまつて浄化センターさんの方々が大変だからです。

だから、お母さんやお父さんがそのまま油を捨てようとしていた時にはわたしがキッチンペーパーで油を捨ててと注意しようと思います。



なぞをかいけつ新聞

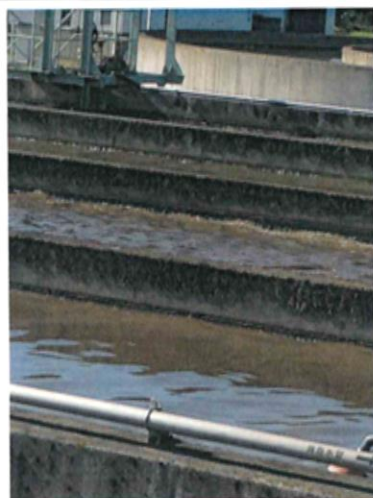
クリーンプラザーで何をしている

クリーンプラザーに十月十八日に行きました。
 クリーンプラザーは、平成十四年にできました。
 クリーンプラザーでは、ゴミをよりしているそうです
 十万五千人の家から来ているそうです
 ゴミの処理について、ゴミは、まずゴミクレーンでゴミをまぜます
 1回1トその時ン持つてまぜているそうです。

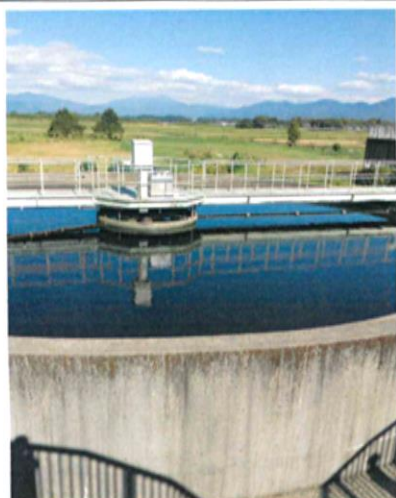


汚れた水は、び生物がきれいに

汚れた水を集めて、次にび生物が、汚れを食べてくれるのです。



その後、汚れをふくんだび生物が他の場所へ、いき水と、どろに、わけられます



浄化センター 感想!!

僕は十月十八日に、浄化センターに行きました。

び生物でも種類がいるそうです。
 例えばマクロビオツスやエピステイリスやロタリアがいるそう。

